国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism
Press Release

がんばろう！東北

平成２８年１月２７日（水）
国土交通省　東北地方整備局

記　者　発　表　資　料

重点「道の駅」の選定について
～地方創生の核となる「道の駅」を重点的に応援します～

「道の駅」は、地方創生を具体的に実現していくための極めて有力な手段であり、国土交通省では、平成26年度より関係機関と連携して、地方創生の核となる特に優れた取組を選定し、重点的に応援する取組を実施しています。

平成27年度は、地方創生に資する地産地消の促進及び小さな拠点の形成等を目指した「道の駅」の新たな設置又はリニューアル等に関する企画提案を募集し、この度、有識者のご意見を踏まえ、重点「道の駅」として東北地方整備局管内で4箇所選定されましたので、お知らせします。

主な取組内容	都道府県	市町村	駅　名	主な特長
産業振興	岩手県	宮古市	たろう	水産物の直売や6次産業化による漁業復興・再生の拠点。
地域福祉	青森県	横浜町	よこはま	周辺施設を活用した、地方創生拠点を形成する自動車専用道路IC直結の道の駅。
	福島県	いいたてむら 飯舘村	（仮称）までい館	原発災害からの帰村時の日常生活を支える、役場や医療機関等と連携した復興拠点。
ｲﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞ観　光	秋田県	能代市	ふたつい	世界遺産「白神山地」の玄関口として、多言語化に対応したインバウンド観光案内所（スタッフ・ガイド）を配置。

〈発表記者会：青森県政記者会、岩手県政記者クラブ、宮城県政記者会、秋田県政記者会、
山形県政記者クラブ、福島県政記者クラブ、東北電力記者会、東北専門記者会〉

問合せ先

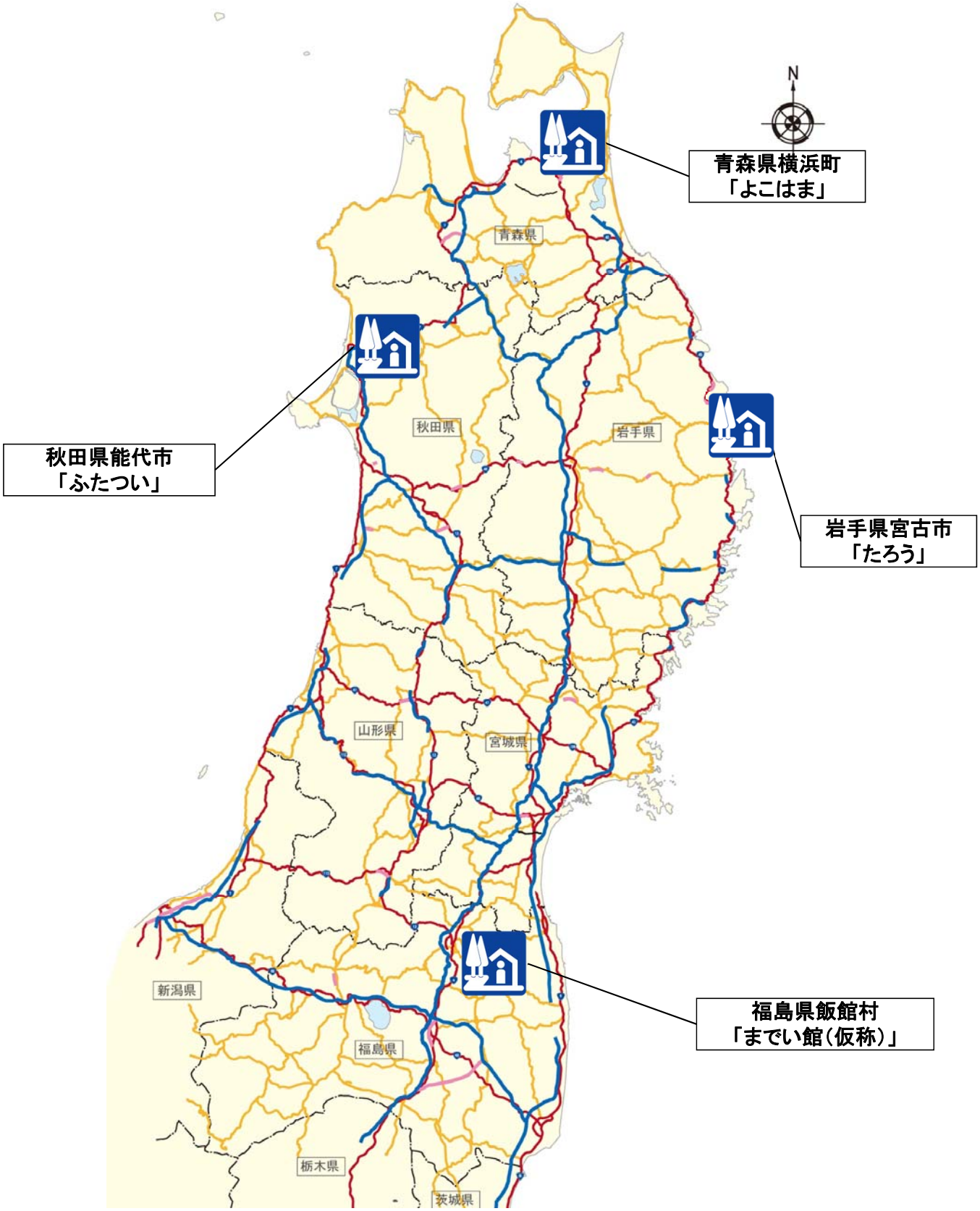
国土交通省　東北地方整備局　ＴＥＬ　０２２－２２５－２１７１（代表）

道路部道路計画第一課長　金森（かなもり）　滋（しげる）　（内線４２１１）

道路部交通対策課長　金ヶ瀬（かながせ）　光正（みつまさ）　（内線４５１１）

平成27年度
東北地方整備局管内の重点「道の駅」位置図

東北地方整備局管内路線



平成２７年度 重点「道の駅」の概要

参　考

＜募集にあたっての具体的な取組例＞

①産業振興 　地域の特産品を活かした産業振興「道の駅」
②地域福祉 　地域の高齢化等に対応した住民サービス（地域福祉）を提供する「道の駅」
③交通結節点 　公共交通の結節点として地域住民に交通サービスを提供する「道の駅」
④防災 　災害時に高度な防災機能を発揮する「道の駅」
⑤観光総合窓口 　地域の観光総合窓口となる「道の駅」
⑥インバウンド観光 　インバウンド観光を促進する「道の駅」
⑦地方移住等促進 　地方移住・ふるさと納税推進に貢献する「道の駅」
⑧交流・連携 　地域間の交流・連携を促進する「道の駅」
※上記取組を実践する方法として 「道の駅」相互のネットワーク化により効果を発揮する「道の駅」

＜支援内容＞

○自治体・関係機関による協議会等を設け、複数の関係機関の制度の活用等について、ワンストップで相談できる体制を作ります。

○道路区域内の駐車場、休憩施設、トイレ、道路情報提供施設等は、直轄道路事業及び社会資本総合交付金等を活用して国土交通省が支援します。

○重点「道の駅」の取組を広く周知します。

＜選定の流れ＞

「道の駅」有識者懇談会
（選定方針に関する意見）

↓

企画提案募集

↓

「道の駅」有識者懇談会
（評価及び選定に関する意見）

↓

重点「道の駅」選定結果公表

「道の駅」有識者懇談会

委員長：石田 東生〔筑波大学 システム情報系社会工学域　教授〕

楓　千里〔（株）ＪＴＢパブリッシング 取締役　ノジュール事業担当〕

篠原　靖〔跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部　准教授〕

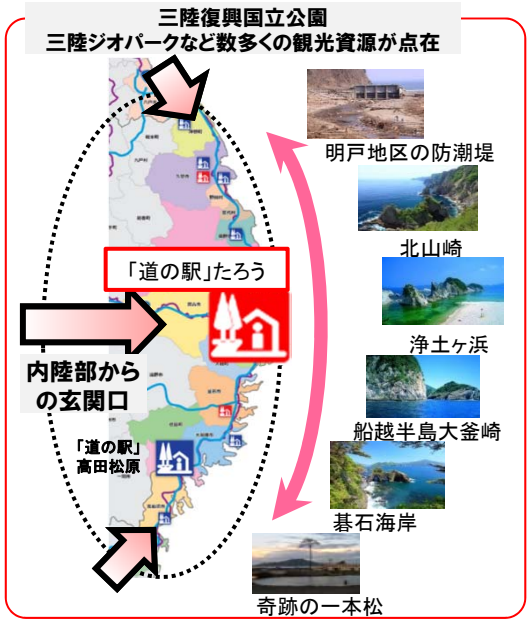
根岸 裕孝〔宮崎大学 教育文化学部　准教授〕

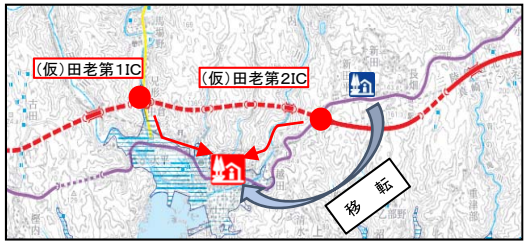
山田 知子〔比治山大学 現代文化学部　教授〕

（敬称略・五十音順）

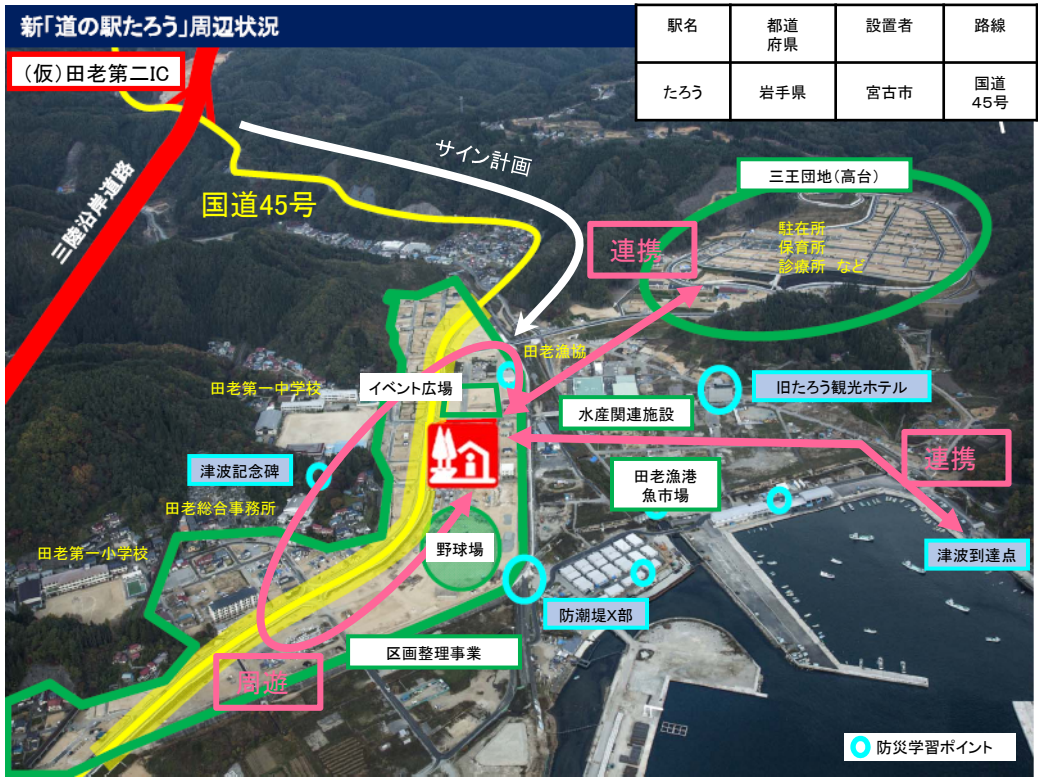
道の駅「たろう」　岩手県宮古市

〇漁業の復興の拠点としての整備。水産物の直売や6次化、情報発信機能を持つ漁業再生の拠点施設
〇未来に続く「田老地区の再生・創世」に向けて、「道の駅」「周辺地区」「三陸沿岸道」が連携した取り組み
〇三陸沿岸地域のゲートウェイとしてジオパーク等、観光資源の情報発信とともに他の道の駅などとも連携





産業振興	交流・連携	観光総合案内窓口
「漁業再生」の拠点	「住民活動」の拠点	「学ぶ防災」の拠点/ジオパークのゲートウェイ



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
たろう	岩手県	宮古市	国道45号	既設	平成7年	一体型


津波遺構たろう観光ホテル


三王岩


鮭・あわび祭り(鮭つかみ取り)

＜提案の先駆性・ポイント＞

■漁業者に活躍の場を提供することにより、意欲刺激、向上による漁業の再生
■周辺市街地と連携し、地区と「道の駅」が相互に機能補完し、地区全体を「道の駅」化
■コンパクトIC間の立地を活かし、三沿道と一体となった地域活力の底上げ

＜実施内容＞

〇三陸特産物の提供、漁業の情報発信機能を持つ水産物直売所の整備
〇地域振興施設と一体的に運用可能な道路情報、休憩施設の設置
〇「学ぶ防災」を軸とした、観光、企業研修、修学旅行などの誘致。受講団体からの作文コンクールの開催など
〇地域の「お祭り」や「イベント」の場の提供、協力、支援

道の駅「よこはま（菜の花プラザ）」　青森県横浜町

○エリア内に集積する施設を活用し、「賑わい」と「見守り」を基本コンセプトとする「産業振興」「地域福祉」「防災」の３機能を有する『地方創生拠点』（小さな拠点）を形成
○道の駅「よこはま」エリアと（仮）横浜ICの直結により、自動車専用道路への休憩サービスを提供





産業振興	地域福祉	防災
「賑わい」ステーション	安全安心な住民サービス提供	地域防災力の強化

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
よこはま	青森県	横浜町	国道279号	既設	平成11年	単独型

【産業振興】
・農協や漁協等5団体が加工ｾﾝﾀｰを利用し、地産地消に取組み、300品目以上を出品
・ ナタネ油は農林水産大臣賞を受賞
・ オリジナル商品開発、ブランド化の加速
・地場産品を活用した６次産業化や集荷サービス等導入による直売所の充実



【地域福祉】
・高齢者など住民への宅配・送迎サービス
・宅配・集荷サービス等とあわせた見守り・声かけサービス
・エリア内施設（除雪ステーション、小中学校、（仮）横浜ＩＣ）連携による防災ヘリやドクターヘリの発着場の複数確保



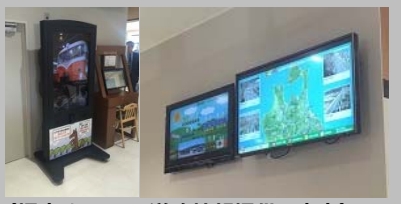

（提案メニュー：集出荷・宅配サービス）

【防　災】
・ H24豪雪時、沿道住民が支援活動、道の駅よこはまでは避難者を受入れ
・自衛隊、警察、消防等の広域支援部隊が参集する後方支援拠点機能強化
・災害時等の受け入れ体制の確保（防災備蓄倉庫・非常用電源等）
・自動車専用道路との直結で、災害時の防災拠点として迅速な対応が可能



【道路休憩施設】
・ 道の駅とICを直結し、休憩サービス提供、地域振興を図る整備方針(H26合意)
・駐車場やトイレの拡張や道路情報提供の充実を提案


（EV急速充電器　H24.1～）


（提案メニュー：道路情報提供の充実）

＜提案の先駆性・ポイント＞

■エリア内に多数集積する既存施設も活用し、小さな拠点を形成。
既存施設：小・中学校（避難所・非常用電源）、河川公園、給水施設、交流館、特産品加工センター、惣菜棟、コンビニ、GS等
■自動車専用道路と直結で、休憩サービス機能を向上。
■日本一の菜の花ブランドで地産地消の取組を加速。
■東日本大震災や豪雪災害では自衛隊等の防災拠点として機能。

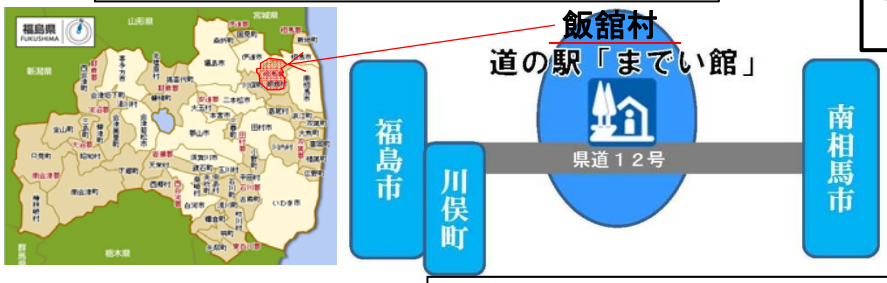
＜実施内容＞

○産業振興：地場産品を活用した6次産業化や直売所の機能強化、道路利用者への休憩サービス提供の充実
○地域福祉：高齢者など地域住民への宅配、送迎サービス、防災・ﾄﾞｸﾀｰﾍﾘ発着場として除雪ステーションを活用
○防災：後方支援拠点や避難施設として、受入体制、受け施設、バックアップ機能を確保。

道の駅「（仮称）までい館」　福島県飯舘村

－原発災害からの帰村※時の日常生活を支え、産業復興を図る場として、復興拠点となる道の駅整備－
○避難指示解除後の帰村に即応し、生活必需品販売施設等を備え、帰村をサポートする拠点として整備する
○村基幹産業である農業の復興のため、「花」をキーワードに先進的取組を実施・PRし、就農や営農再開を支援する

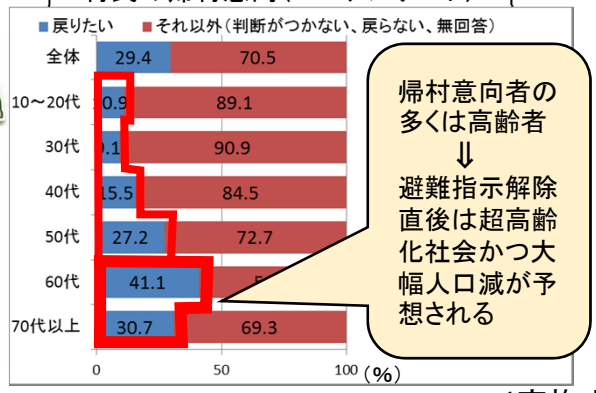
位置図



避難指示区域の状況



村民の帰村意向（H27アンケート）



生活を支える地域福祉拠点
帰村に即した需要に対応

産業復興の先進的取組
先進技術による花づくりで農業復興

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
までい館	福島県	飯舘村	県道12号	新設	平成29年	一体型

土地利用構想図



＜提案の先駆性・ポイント＞

■放射能という特異性から、帰村人口の大幅減が見込まれる中で、「人」「もの」「情報」が集まる道の駅を復興拠点として整備する
■商店、金融機関の再開の目途が立たない中、帰村時の村民の日常生活を支えるための施設を整備。また、高齢者等交通弱者のために宅配等を実施する。また、役場や医療機関等と連携し、帰村をサポートする拠点とする
■産業、特に農業復興のため、食べ物より放射線や風評被害の影響を受けにくい「花」をキーワードにした営農再開を進めるための拠点

＜実施内容＞

○【地域福祉】：帰村時に即応する日常生活必需品確保のための商業施設整備
村民の帰村生活を支援し、高齢者等交通弱者のための宅配サービス、ATM設置による金融サービス等を実施
村内巡回バスによる村内主要施設（役場、医療機関等）、各集落との連携
○【産業振興】：エリア内施設で先進技術による高価値の花苗を栽培し「までい館で展示・直売。村民への苗・技術提供による営農再開支援
○上記に加え、“戻る人”“戻らない人”“村を応援したい人”をつなぐ「ネットワーク型の新しいむらづくり」の拠点として、事業やイベントを企画・実施

※帰村：原子力発電所事故により村外へ避難している村民が、避難指示解除後に村内に帰還すること。　国は平成29年3月に避難指示解除を目指すとした方針を示している。

道の駅「ふたつい」　秋田県能代市

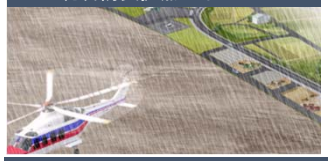
〇道の駅「ふたつい」のある二ツ井地域は、秋田県北部、世界自然遺産「白神山地」のふもとに位置し、かつては林業・舟運により栄えたものの、近年は急速な人口減少や高齢化による地域活動の低下が深刻な状況。
〇今回、日沿道整備で支障となる道の駅「ふたつい」を単なる移転ではなく、二ツ井地域の再生をかけた最後のチャンスと捉え、移転整備する道の駅で地域課題の総解決を図る。

防災	地域福祉	産業振興	インバウンド観光
立地条件を活かした県北の総合的な防災拠点	積雪寒冷な冬場でも交流できる場	二ツ井市街地の商業・産業振興	世界遺産「白神山地」のインバウンド観光

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
ふたつい	秋田県	能代市	国道7号	新設	平成30年	一体型



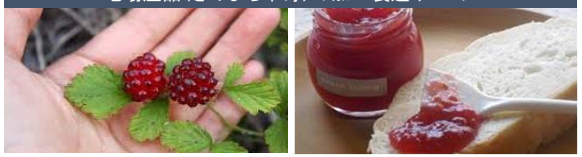
総合防災拠点のイメージ



子育て世代・高齢者のふれあいイメージ



地場産品（きみまち木苺）の加工製造イメージ



外国人向け観光案内所イメージ



＜提案の先駆性・ポイント＞

■立地条件を活かした県北の総合的な防災拠点（水防活動拠点、道路防災拠点、秋田県北の広域的な応援活動支援拠点）
■地域住民が冬場でも交流する場を創出し、地域の活力創造に活用
■道の駅での取り組みを二ツ井市街地の商業・産業振興に結び付ける
■IC直結や空港近接を活かしたインバウンド観光窓口を設置

＜実施内容＞

①【防　　災】：秋田県北地域の総合防災拠点として整備。指定緊急避難場所として避難者や利用者の安全確保や食料等を支援できる体制を整備。二次物資集積拠点とするための整備とともに、災害対策本部との密な連絡・情報発信が可能な体制確保、また自衛隊後方支援拠点、広域応援部隊のベースキャンプ機能を整備。
②【地域福祉】：子育て支援センターや一次預かり所の整備等、子育て世代～高齢者まで世代を超えて集い・ふれあう場を創出。また、子育て世代と高齢者が中心となり、二ツ井のブランドづくりや6次産業化に取り組む。さらに道の駅経由のｺﾐｭﾆﾃｨﾊﾞｽを運行し、高齢者の外出機会の創出と、既存市街地への誘導・活性化を図る。
③【産業振興】：加工品製造・商品開発施設を整備し、「きみまち木苺」「きみまちこまち有機栽培米」「米代川の天然鮎」などの地場産品に付加価値をもたせた「ふたついブランド」を確立。「秋田杉のコカリナ」や桶・樽等の工芸品や商店街情報を展示・発信し、市街地の工房・体験施設及び商店街に道の駅来訪者を呼び込む。あわせて、道の駅から市街地間を河川内の遊歩道やサイクリングロードで魅力的につないで、誘導を図る。
④【ｲﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞ観光】：世界遺産「白神山地」を玄関口として、東北各地の世界遺産と連携。多言語に対応したｲﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞ観光案内所（ｽﾀｯﾌ・ｶﾞｲﾄﾞ）を配置、あきた北空港・能代市内をつなぐ高速バス停留所設置等、ｲﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞ観光を支援する。